

Ⅲ. 3. 6 道産マイタケ新品種の高品質化を目指した栽培技術の開発

平成 17～19 年度
生産技術科，森主任普及指導員，道立衛生研究所

はじめに

本研究は，平成 14～16 年度実施の「針葉樹おが粉の利用に適した道産品種の育成」を引き継ぎ，選抜したマイタケ新品種の生産性や品質を向上させる栽培技術を確立するとともに，消費者からの信頼性を高めるために材料の安全性を検証するなど，新品種の高品質化を図ることを目的とした。

研究の内容

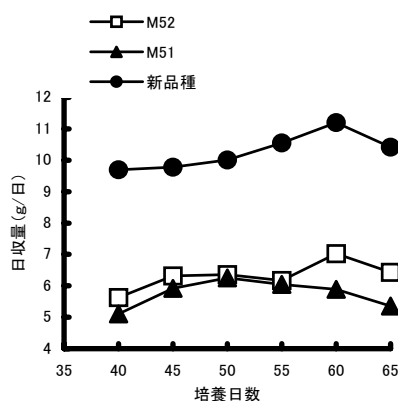
17 年度は，種苗特性分類調査報告書に基づき，品種登録するために必要な栽培特性等の基礎データを収集した。その中で，寒天培地上における最適成長温度が 24℃であることを明らかにした。また，屋外に菌床を埋設する露地発生試験で子実体の形態や発生時期を評価した。

18 年度は，新品種の生産性向上に必要な空調栽培における栽培特性の把握，および消費者の信頼性を高めるために必要な培地材料の安全性の検証を行った。

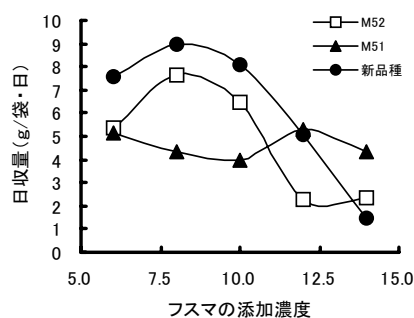
1. 空調栽培における栽培特性の把握

新品種の栽培特性を把握するため，培養日数の適正条件（第 1 図）や，栄養材（フスマ）の添加濃度（第 2 図）について，市販品種（M51，M52）と比較した。

新品種は培養日数を 40 日から 60 日まで長くするにしがたい収量および生産効率（日収量）が向上し，60 日の生産効率では 40 日の 15% 向上した。また，市販品種の中で最も生産効率が高い条件に対しては，



第1図 培養日数と日収量



第2図 日収量（生産効率）に対するフスマの添加濃度の影響

1.6～1.8 倍の改善が認められた。

フスマの添加濃度については，新品種は市販品種の M52 と同様に 6～10% が適しており，8% が子実体収量および生産効率とも最も優れていた。また米ぬかを栄養材として用いた場合にも，市販品種に比べ収量，生産効率に優れていた。

2. 新品種の安全性を検証する培地材料の選別と栽培条件の検討

一般的にマイタケ等の栽培に使用される培地基材（道産おが粉，輸入おが粉，コーンコブ）12 種類および栄養材（フスマ，コーン糠等）13 種類について，重金属 4 種類および農薬 17 種類の分析を行った。「安心きのこ栽培マニュアル」における基準値（飼料における農薬・重金属の指導基準値）を指標として検討した結果，輸入広葉樹由来のおが粉の Pb 含量が基準値を超え，Cd も基準値は超えないものの比較的高い値を示した。農薬については，一部の栄養材において微量検出されたが，基準値の 1/10 以下のレベルであった。

以上，一般的な道産おが粉や栄養材の安全性が確認されたものの，輸入材広葉樹由来のおが粉では微量とはいえ基準値を超える重金属を含有するものであった。今後，それらの材料を使用し子実体レベルの安全性の検証を行う。

まとめ

18 年度は，新品種に適した培養条件や栄養源の添加濃度の把握，および培地材料の安全性の検証を行った。

19 年度は，成分分析結果を踏まえ栽培方法による品質特性を明らかにし，廃培地の利用方法の検討および安全性の検証を引き続き行う。